

パネルディスカッション

ディスカッションタイトル：現代都市を読み解く社会情報データの分析視点

ディスカッション要旨

20 世紀初頭からの歴史を持つ伝統的な都市社会学のフィールドワーク的手法は、都市を真摯に観察し、そこで生じている現象を整理・理解する研究スタイルと考えられる。一方で、数理工学手法を用いた都市の OR は、数理モデリングという現象の本質抽出と単純化という演繹的手法で、都市の基礎的性質を導いてきた。このように、一見すると両者はその研究視点に差異が生じているようにも見えるが、「都市の本質」を紡ぎ出すという大局的視点では、一致している。

加えて、都市の OR は、近年の地理情報データ(GIS)の目覚ましい発達により、都市の基本的性質のみならず、より複雑化された社会システムそのものへも問題を切り込みつつある。その際に重要となるのは「空間データ」、「社会データ」であり、その収集こそ都市社会学が最も先進的に取り組んできたものとする。21 世紀を迎え、持続可能な都市システムの在り方を改めて議論するに当たり、両研究分野の積極的交流とその融合は、極めて意味を持つものと言える。本パネルディスカッションを通し、当該目的が達せられるための道筋、問題点、展望等について議論する。

パネラープロフィール

腰塚武志（こしづか たけし）

1944 年生まれ。1966 年東京大学工学部都市工学科卒業，1969 年東京大学大学院工学系研究科博士課程都市工学専攻中途退学 工学博士（東京大学）。東京大学助手工学部，筑波大学助教授社会工学系，筑波大学教授社会工学系，元筑波大学副学長を経て，2009 年 4 月より南山大学情報理工学部教授，2012 年より日本オペレーションズ・リサーチ学会会長。

受賞歴：日本オペレーションズ・リサーチ学会業績賞(2003 年)，日本都市計画学会石川賞(2009 年)ほか。専門は，都市工学，都市のオペレーションズ・リサーチ。

有末 賢（ありすえ けん）

1953 年生まれ。1977 年慶應義塾大学法学部卒業，1982 年慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程修了 博士（社会学）。慶應義塾大学 法学部政治学科 専任講師，助教授を経て 1996 年より慶應義塾大学 法学部政治学科 教授。

主な著書：「現代大都市の重層的構造」，「生活史宣言～ライフヒストリーの社会学～」ほか多数。専門は，都市社会学，地域社会論，生活史研究。

鳥海重喜（とりうみ しげき）

1974年生まれ。2007年3月中央大学大学院理工学研究科情報工学専攻博士課程後期課程修了 博士（工学）。(独)海上技術安全研究所を経て、現在、中央大学理工学部助教。
専門は、社会システム工学、地理空間情報処理。

石田幸生（いしだ さちお）

1980年東京都生まれ。2013年、慶應義塾大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。
在学中、文部科学省「世界を対象としたニーズ対応型地域研究推進事業」研究分担者、アジア農村研究会団長等を経て、現在、杏林大学看護学校非常勤講師（社会学）。
社会学系コンソーシアム事務局員、経済社会学会東部幹事を兼務。
専門は、開発社会学、東南アジア社会論。

本間裕大（ほんま ゆうだい）

1981年生まれ。2004年慶應義塾大学理工学部管理工学科卒業、2007年9月慶應義塾大学大学院理工学研究科開放環境科学専攻後期博士課程修了 博士（工学）。首都大学東京システムデザイン学部助教を経て、現在、早稲田大学高等研究所助教、
専門は、社会システム工学、オペレーションズ・リサーチ、都市工学、情報ネットワーク。